

New Creation Church in Kyoto since 1997

Miracles



2020年4月19日号 No.1202

緊急事態宣言！

主管牧師 藤林イザヤ

遂に、緊急事態宣言が、全国に向けて発せられました。先の7都府県に加えて、北海道や京都も重点的な地域として加えられました。それを受けて、京都府でも、営業の自粛や休業要請が始まりました。

これを受けまして、連休の最終日に予定しておりました、長女の結婚式は、延期することとなりました。先月末に、家族だけで実施するという方向で調整していたのですが、あいにく、京都も緊急事態宣言の重点地区となり、東京都の往来そのものを自粛する必要がある状況になりました。残念ですが、延期します。

でも、二人の話を聞きながら、問いました。本音でどうなん？と。すると、やはり素直に「沢山の方にお

祝いして欲しい！」と申しました。ならば、それが大切なことじゃないか？と応えたのです。二人の願いが最も叶えられる方向へ導かれると信じたのです。

予定すること、計画を立てることは大事です。夢を現実にしていく上で、不可欠なことです。でも、時に自分の力ではどうしようもないことも起こります。震災のたびに、その現実を突き付けられます。今回の新型コロナウイルスの感染は、全国的な災厄です。こんなことは、私も55年生きてきまして、初のこと！です。ならば、この現実もしっかりと向きあいながら、丁寧に歩んで行きたいと思います。

教会の活動も自粛に入りました。聖日礼拝、祈禱会以外は、ほぼありません。他の教会も伺いますと、ほぼそういう状態でした。私たちの教会も、CSと学び会は、自粛が解けるタイミングまで待ちます。その中で、やれることをドンドンやっていきます！

2020年4月19(日) 聖日礼拝 11時00分

主題『暗闇に光!』

説教者：藤林イザヤ

聖書箇所 ヨハネ伝20.24-25

13 ときに、南風が静かに吹いて来たので、人々は望みどおりに事が運ぶと考えて錨を上げ、クレタ島の岸に沿って進んだ。14 しかし、間もなく「エウラキロン」と呼ばれる暴風が、島の方から吹き降ろして来た。15 船はそれに巻き込まれ、風に逆らって進むことができなかったので、わたしたちは流されるにまかせた。

16 やがて、カウダという小島の陰に来たので、やっとのことで小舟をしっかりと引き寄せることができた。17 小舟を船に引き上げてから、船体には綱を巻きつけ、シルティスの浅瀬に乗り上げるのを恐れて海錨を降ろし、流されるにまかせた。

18 しかし、ひどい暴風に悩まされたので、翌日には人々は積み荷を海に捨て始め、19 三日目には自分たちの手で船具を投げ捨ててしまった。20 幾日もの間、太陽も星も見えず、暴風が激しく吹きすさぶので、ついに助かる望みは全く消えうせようとしていた。

<思うに任せない現実!>

護送する人々は望み通りに事が運ぶと考えてパウロを無視!

→突如エウラキロンという暴風が吹き付けてきて難渋する!

⇒嵐にもみくちゃにされ、助かる希望が消え失せようとした!

使徒言行録27.21-26

21 人々は長い間、食事をとっていなかった。そのとき、パウロは彼らの中に立つ

て言った。「皆さん、わたしの言ったとおりに、クレタ島から船出していなければ、こんな危険や損失を避けられたにちがいありません。

22 しかし今、あなたがたに勧めます。元気を出しなさい。船は失うが、皆さんのうちだれ一人として命を失う者はないのです。

23 わたしが仕え、礼拝している神からの天使が昨夜わたしのそばに立って、24 こう言われました。『パウロ、恐れるな。あなたは皇帝の前に出頭しなければならぬ。神は、一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ』

25 ですから、皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、そのとおりになります。26 わたしたちは、必ずどこかの島に打ち上げられるはずですよ」

<神の必然！>

絶望の淵にあってパウロがたち上がり励ましを語る！

→下手を打った現実を受け止めた上で神の必然を物語る！

⇒必ずどこかの海岸に打ち上げられるという約束を語る！

(メッセージ・ポイント)

① 希望の光は、

絶望の（ ）に輝く！

Cカ哀歌 3.31-32

31 主は、決してあなたをいつまでも捨て置かれはしない。32 主の慈しみは深く懲らしめても、また憐れんでくださる。

CカルカEE1.78-79

78 これは、我らの神の憐れみの心による。この憐れみによって、高い所からあけぼのの光が我らを訪れ、79 暗闇と死の陰に座している者たちを照らし、我らの歩みを平和の道に導く」

② 神が開かれる

() を信頼しよう！

C カルカ伝 1.45

45 主がおっしゃったことは、必ず実現すると信じた方は、なんと幸いでしょう！

藤林邦夫師 3 分間メッセージ 1991 年 『鉄道の軌（ゲージ）』

韓国が建設を予定している新幹線の請け負い入札で、日本がフランスと競った末に、日本の JR が敗れた……という話を聞きました。その理由は、技術ではなく、線路の幅、つまり、軌道の軌（ゲージ）の違いにありました。

日本の JR などの標準軌のゲージよりも、より広いゲージを使いたい、ということです。それは、釜山からソウルへ、またそこからやがてソ連と直結して、ソ連の極東地域にまでつなげたいという、遠大な計画があるからです。

それには日本の鉄道のゲージでは、狭くて合わないので、フランスのそれを選んだというわけです。

これは鉄道だけではなく、物の考え方にも当てはまると思います。日本では通用するが、余りにも狭い考えで、外国へ持っていくと食い違ってしまうということがあります。

たとえば、今回の湾岸戦争でも、アメリカなどでは、4 人に 1 人は、直接にこの戦争に関わっている人を、家族や親族に抱えている人がいます。友人で戦場へ行っている人もいるのです。そういう人は、身に沁みて戦争はない方がよいと考えています。しかしやむを得ず、それに巻き込まれているのです。

私たち日本人は、対岸の火事のように批評するのですが、それだけで良いのでしょうか？お金さえ出せば、それで済むのでしょうか？もう少し何とか、軌道のかみ合うところがあっても善いハズだと思うのですが、どこかに利己的というか、狭い考えがあるように思います。

問題はしっかりとした哲学、神学に基づいた世界観や人間観を持っているかどうかであります。それが広くある時、世界の色々な国の人々にも愛をもって接し、経済的利益を超えた祝福を与えることができるのです。広い心というゲージを持つことが、今こそ必要であります。

「できる限り謙虚で、かつ柔和であり寛容を示し」（エペソ書 4.2）と、聖書も心のゲージを広くするように教えております。

★今週の予定

2020年4月23日(木) BLD 祈祷会 19:30- アバハウス2階

★礼拝のご案内

日曜日 教会学校・New Creation Seminar 9:30- アバハウス3階
聖日礼拝 11:00- アバハウス1・2・3階
手話礼拝 11:00- アバハウス1階(第三週目の聖日礼拝)
支援礼拝 13:30- アバハウス2階
ろうあ者学び会 14:00- アバハウス3階(第三週日曜日)
木曜祈祷会 19:30- アバハウス2階

★4月の予定

23日(木) BLD 祈祷会 アバ2階 19:30-
26日(日) 聖日礼拝 アバ2階 11:00-
30日(木) BLD 祈祷会 アバ2階 19:30-

◆2020年4月16日のBLD 祈祷会出席者数 <<合計19名>>
◆2020年4月12日(日)の礼拝出席者数 <<合計53名>>
礼拝…27名 Zoom…26名

京都中央チャペル (αββα - HOUSE)

〒604-0845 京都市中京区烏丸御池上る二条殿町540

Tel: 075-229-3058 Fax: 075-229-3059

<http://www.chuochapel.com>

郵便振替 01090-3-52922 名義: 京都中央チャペル